

境界線廻り ~新町3丁目~

府中市の地形は多摩川を背にして蟹のような形をしています。今回は市の北部方面、蟹にたとえれば頭あたりの尖った部分、新町3丁目を歩いてみました。行ってみると興味深い発見がありました。



市境の商店街

写真①は、右側が小金井市、左側は府中市ですが、両側に府中市新町の「しんまち」という標示がありました。かつては市境などを意識することもなく共存共栄の商店街だったようですが、昨今は時代の波に押され空き店舗が目立ちます。



商店街を通り過ぎて振り返ると、写真②の地点になります。右側がしんまち商店街、真ん中は小金井市、左手は同市の幼稚園です。この幼稚園は小金井市の児童だけでなく府中・国分寺の児童も受け入れています。さすが市堺、というのでしょうか。

隣接3市が交わる地点

右写真③は府中から国分寺方向を望む地点です。右側の住宅が小金井市、左側の一戸建てが府中市、左に入る道路が「元町通り」で、その先のマンションが国分寺



市になります。小さな三叉路ですが、ここは3市が接する点になります。都県境などは大きな道路標識がありますが、この付近には何の標示もありません。

さて探し求めていた隣同士が他市の例を発見しました。右写真④にある左側のビルは府中市、右側は国分寺市に所在します。ちょうど2つのビルの上に市境があることになりました。大きな発見とばかりに心を弾ませて、「子供の学校は？」「選挙の投票所は？」「役所の手続きは？」と市境ならではの利便について質問をぶつけてみようとしてそこにいた方に声をかけてみました。

しかし、そこは個人宅ではなく車販売と飲食関係のビル。市境であることを尋ねても「それが何か？」という感じで、境界など意識している印象は感じられません。毎日働いている方にしてみれば、所番地がどこであろうと勤務先という以外に取り立てて関心はないような印象でした。

境界に近い国分寺市の交番のお巡りさんにも話を聞きました。「市の内外に拘わらず、緊急時にはすぐに対応することが重要。事件・事故がどの地点で発生したかで事後的に管轄署が決まることもあるが、特別に境

界が問題になることは無い」とのことでした。確かに交番に駆け込めば、「何が起こったか」が問題で、「どこの市民であるか」などは二次の問題ですね。

市境の歴史を辿ると

市境の国分寺側旧家で何うと、昭和初期この付近は農地や林ばかりで当時の農道や林道が境界線として残っているのだろうとのこと。現在の JR 中央線が敷設されたころ、付近は原野で、昭和 20 年代になると原野や林が宅地として切り拓かれ新町付近には多くの住宅建設がなされたようです。

市の北部を通過する大きな東八道路があるため、新町3丁目は府中市の孤島のようにも見えます。しかし、逆に市境の利点で付近を小金井行き路線バスや、国分寺のコミュニティバス「ぶんバス」が通っています。都心に向かう時は小金井駅行き、郊外に向かう時は国分寺駅にと隣市の交通を都合よく利用出来るので、市内に向かうよりも便利な生活と言えるかも知れません。

街を歩いてみると、普段は車で通り過ぎていた何気ない景色の中にも興味深い情景が見えて来ます。今回は自分にとって初めて足を踏み入れる地域でしたが、貴重な知識を得る体験になりました。
(記/小林清次郎)



編集後記 お正月はいかがお過ごしでしょうか。今号の3面では四谷のどんど焼きを取り上げてみました。みなさんもお近くのお正月行事に参加してみたいでしょうか。

また、1面の「散歩道」を歩いてよし、4面の「境界線」を歩いてよし。参考にしていただければ幸いです。今年も元気に過ごしたいですね。(記：井口文江)

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
府中生涯学習センター共同事業体
府中市生涯学習センター

〒183-0001 府中市浅間町1-7 Tel 042-336-5700
ホームページ：<http://fuchu.shogaigakushu.jp/>